

備 設	電 氣	電 氣	備 設	工 區
東京線 新設 其他工事	東京線 送電 其他工事	東京線 送電 其他工事	野間 築備 工事	公園口 新築 電車線 布設 其他 工事
大正十四年六月	大正十四年六月	大正十四年五月	大正十四年三月	大正十四年三月
同十四年十月	同十四年七月	同十四年十月	同十四年九月	同十四年九月
直營	直營	直營	請負	同 直營
			機械基礎を含む	乗降場 上家及 跨線橋 を含む 線路砂 利敷を 含む

### 第五 橋 梁

本線路は全部橋梁より成り其型式は多種に涉ると雖も陸橋は東京黒門町橋間に於ては主として拱橋を採用し地形上若くは地盤の関係上「スラブ」を採用せし所數箇所あり東松下橋山下町橋間に於ては橋下の利用率を大ならしめんが爲め専ら「スラブ」式を採用せり

但し五條町橋の一部は地下室付二階建鐵骨混凝土「スラブ」橋にして橋梁と云ふよ

りも寧ろ家屋型なるは例外とする處なり

第一、第二工区内即ち黒門町橋以南は煉瓦及石材を用ひて裝飾を施したるも其の爲め多額の費用と時日を要するを以て裝飾は必要に應じ他日施すこととし、工費を節約して線路の延長を謀るを急務と認め東松下橋以北に於ては一切化粧工事を省略せり

架道橋は全部版桁を架設し徑間は吳服橋柳原通橋間に於ては市區改正道路の幅員に倣ひ佐久間橋五條橋間は練塀橋を除き道路幅員全部六十三呎以下なるを以て設計の手續を省き且つ經濟上より支間六十六呎のものを一様に用ひたり練塀橋は當初六十三呎の設計なりしも後復興道路計畫幅に基き九十四呎九吋に改め中央に橋脚を設けたり上野大通橋は途中に橋脚を建て支間九十二呎九吋及び六十三呎二吋の二徑間とせり徑間九十呎以上の版桁は本邦に於ては其の例を見ざるべく途中線路の曲線に倣ひて屈折したるも亦異とすべし、型は「ハーフスルー」及「デツキ」型の二種を用ひ何れも軌條面下一呎六吋の處に「バックルドプレート」を張込み道床を入れ列車通過の際に起る音響輕減に努めたり

「スラブ」橋に於ては橋脚と「スラブ」との間には初め厚八分の一寸鉛板を敷込たるも鉛板は價も廉ならざるを以て後には同厚の「アスファルト」氈板を使用する事に改めたり

「スラブ」の伸縮接手には「アスファルト」若くは「アスファルト」氈板を填充し其上に銅板を以て雨水の侵入を防ぎたり

架道橋に於ては防腐の目的を以て其他に於ては防水の爲橋背には厚八分の三寸の「アスファルト」を塗布し其上に厚二寸の防水「モルタル」塗を施せり

河川に架したる橋梁としては僅かに三ヶ所に過ぎざるも徑間百二十五呎の外濠橋徑間百〇八呎の神田川橋あり何れも鐵筋混凝土橋としては稀に見る大橋梁にして殊に神田川橋は大河戸博士の新しき設計法に依るものなり

設計荷重は今回開通の二線に對しては吳服橋鍋橋間の架道橋及錢瓶町陸橋には八十八噸「コンソリデーション」機關車二臺聯結とし他は「クーパー」氏示方書 E 33 を採用せり

今東京上野間に架設せし橋梁を順序に列擧すれば左の如し

陸橋	延長	徑標	間準	型式	橋脚	基礎に使用	摘要
錢瓶町橋	六五七三三	二六三三	〇〇	煉瓦拱	震災の爲め記録焼失不明	杭なし	表面煉瓦及石材を以て裝飾す
大手町橋	四五一〇五	三三二〇〇	〇〇	鐵筋拱	杭なし	及	
龍閑河岸橋	九二五五三	一〇〇〇〇	〇〇	斜拱	二十八呎		
第一本銀町橋	一七一六九	三三二〇〇	〇〇	鐵筋拱	同		
第二本銀町橋	八五一五一	一八七五		連續拱	同		
西今川町橋	六〇八六			同上	同		
千代田町橋	三二八六九	三三二〇〇	〇〇	鐵筋拱	十八呎乃至三十呎		
新石町橋	一〇四〇四			連續拱	二十八呎		
第一鍛冶町橋	三一七一〇	一五〇〇〇	〇〇	壁式	至二十五呎		
第二鍛冶町橋	二二六六九	一五〇〇〇	〇〇	同上	至三十五呎		
第三鍛冶町橋	七六三二			單柱式	至四十五呎		
黑門町橋	四六二一九	三三二〇〇	〇〇	連續拱	至三十五呎		

架道橋	總徑間	型式	橋柱	基礎	脚	總重量	摘	要
吳服橋	一一九 <small>呎</small> 三九	複「ハーフスルー」型	二列	有	有	八三九 <small>噸</small> 一		
常盤橋	五六七〇	複「ス」線「キ」版	同上	有	南側有 北側無	三六三八		
龍閑橋	一〇〇五八	單「ハーフスルー」型	同上	有		四四二六 <small>噸</small> 六七	下上	線線
木銀橋	四七二六	複「ス」線「ル」版	無	無		五七九二	下上	線線
西今川橋	四七二六	單「ハーフスルー」型	同上	同		二二八五 <small>噸</small> 〇〇		
千代田橋	四二八七	同上	同上	同		二二二二 <small>噸</small> 八八		
新石橋	七九三六	同上	二列	有		四四〇一 <small>噸</small> 五七		

山下町橋	四六〇三九	一五〇〇	同上	同上	同上	同上		
第一五條町橋	二〇六九五	一五〇〇	同上	同上	同上	九呎乃至三時十		特種設計
第二五條町橋	一七八六二	同上	同上	同上	同上	三時		
下谷町橋	四六〇八九	一五〇〇	同上	同上	同上	九呎乃至六時		

東松下橋	五〇八	鐵筋混 凝土單床	壁式		震災の爲め記録焼 失不明			表面「モルタル」塗
平永町橋	三六八〇七	同上	同上					同
第一柳町橋	一二一七一	同上	同上					同
第二柳町橋	九六〇三一	同上	同上					同
柳原河岸橋	四六五五	鐵筋混 凝土連續床	單柱式			九呎乃至三十呎		
佐久間河岸橋	一三三九二	同上	框構式			九呎乃至三十五呎		兩國御茶水線乘越の爲 め橋柱一部鐵骨混凝土
第一秋葉橋	六五三一六	同上	同上					
第二秋葉橋	一一二九九	同上	同上					
第一御徒町橋	七〇九三五	鐵筋混 凝土單床	同上			九呎乃至二十七呎		
第二御徒町橋	六五六〇七	同上	同上					
第三御徒町橋	二八〇六二	同上	同上			九呎乃至二十五呎		
第一上野町橋	一三七九四	鐵筋混 凝土連續床	同上					
第二上野町橋	一三七二九	同上	同上					

# 第六軌道

軌道中心間隔は線路の項に記載したる如く所により異なるれ共軌條は百封度長拾

橋梁	徑間	型式	基礎	統	摘要
外濠橋	一二五〇	「メラン式」 混凝土鐵 拱筋	無		表面花崗石張裝飾を施す
白旗橋	五一二二	「ス」 單線版 桁型	無		上り、下り、各線重量 二噸〇二
神田川橋	一〇八〇	トランスフォーム カテナリー鐵筋混凝 土拱	有		表面巖石塗裝飾を施す

橋梁	徑間	型式	基礎	統	摘要
摩利志天橋	六三〇	同	同	同上	同上
忍川橋	六三〇	同	同	同上	同上
五條橋	六三〇	同	同	同上	同上
上野大通橋	一五三六	「ハーフスルー」 單線版 桁型	無	同上	同上

橋梁	徑間	型式	基礎	統	摘要
上白壁橋	四一五〇	「デ」 線ッ 版キ 桁型	無	同上	同上
大通橋	一四八〇	同	有	同上	同上
鍋橋	七五八九	同	同	同上	同上
東松下橋	七一九六	「ハーフスルー」 複線版 桁型	無	同上	同上
平永橋	四七一二	「デ」 單線版 桁型	同	同上	同上
柳橋	三三八三	同	同	同上	同上
柳原通橋	六二二七	「ハーフスルー」 單線版 桁型	同	同上	同上
佐久間橋	六三〇	「デ」 單線版 桁型	同	同上	同上
明神坂橋	六三〇	同	同	同上	同上
煉塀橋	九四七五	「デ」 複線版 桁型	有	同上	同上
長者橋	六三〇	「デ」 單線版 桁型	無	同上	同上
同朋橋	六三〇	同	同	同上	同上
切通橋	六三〇	同	同	同上	同上